

職場からのたたかいを基礎に、
 コロナ禍においても「いのち」と「雇用」を守り、
 5年・10年先を見据え、JTSU-E運動を
 堂々と押し進め、未来を切り拓くことを確認!

JTSU 2020年
 8月1日(土)

**TOKYO
 MAIL NEWS**

職場討議資料

J R東日本輸送サービス労働組合
 東京地方本部
 東京都台東区東上野2丁目
 東上野2丁目ビル202号室
 TEL 03-6803-2680
 FAX 03-6803-2681
 MAIL tokyo@jtsu-e.org



J R東日本輸送サービス労働組合

東京地方本部

第2回定期大会



2020年7月11日 北区赤羽会館大ホール

採択結果

- ▽スローガン(案)
 - ▽労働協約・協定締結承認について
 - ▽2019年度決算承認について
 - ▽2020年度運動方針(案)について
 - ▽2020年度財政方針(案)について
 - ▽規約・諸規則の一部改正(案)について
- 満場一致で可決されました!

大会スローガン

- 1.すべての運動は職場から!**
 組合員のための運動を基礎に、安全第一・現場第一の
 職場風土を実現し、JTSU-Eの組織強化・拡大を勝ち取ろう!
- 1.エッセンシャル・ワーカーの誇りと使命をかけて!**
 コロナとの共存と「いのち」を最優先する
 職場環境・労働条件を勝ち取り、鉄道の社会的使命を
 未来に継承する“ポスト・コロナ政策”を実現しよう!



リモート傍聴を実施!
 感染拡大防止の観点から、本会場の様子を各支部の傍聴会場へ中継する形式で行いました。



組合員と家族の幸せの実現のために、 真つ当な労働組合をつくりあげよう！

主催者あいさつ(要旨) 執行委員長 中山貴宏

仲間のつながりを深め、 平等で差別のない社会の実現を！

この度の九州地方を中心とした豪雨災害によって甚大な被害を受けられた方に、心よりお見舞い申し上げます。

「全ての仲間のために！」とスローガンを掲げ、私たちJR東日本輸送サービス労働組合東京地本は2月に歴史的なスタートを切りました。この5ヶ月間を振り返れば、私たちがかつて経験したことのない苦しい道のりでありました。新型コロナウイルス感染症の拡大により緊急事態宣言が発動され、労働組合の生命線である人と向き合っている対話や移動が制限される中で、JTSU-Eの運動をつくり広めてきました。

現在JTSUに結集した組合員は、バスの仲間も含めて3,000名を超えました。また、東京地本でも昨日支社支部が結成され、7支部41分会、1,700名を超える組合員がJTSU-Eに結集しています。

生物災害と向き合い「いのち」を 最優先にした労働環境の実現に向けて

緊急事態宣言、そして東京アラートが解除されてからひと月、人口の増加に比例して感染者も増加し、東京地本では連日200名を超えています。

社会構造における問題も明確です。「健康格差」という言葉に現れるように、低所得者の感染・死亡率が高所得者の3倍になっています。日本においても、コロナ禍で職を失った労働者が3万1,000人を越え、その7割近くは非正規労働者です。貧困・格差による労働者の分断が、コロナ禍においてさらに深刻となりつつあります。

JR東日本は6月9日「休業指示に係る就業規則等の改正について」を提案しました。会社は「直ちに一時帰休の実施は想定していないが、備える必要はある」と述べています。私たちの生活や賃金に関わる重要な事柄であり、全体像を分析しながら早急に議論を進めます。

また、営業列車内での除菌活動について、大崎運輸区分会が感染予防の観点から一旦中止・再考を求めましたが、その理由を見ることなく「組合が反対している」と宣伝されています。私たちが求めているのは、アピールではなく、感染予防対策としての除菌です。車内での感染リスクが高まっている中で、お客さまに安心して利用してもらうために、全車両の抗菌対策を行うべきだと訴えているのです。

コロナ禍において、社会が大きく変わろうとしています。政府が押し進めるテレワークの推進や移動自粛などにより、減収は避けられませんが、だからといって、企業利益を優先するために、労働条件の低下はあってはならないことです。

アルコール検査実施方法の変更やリネン交換など、次々に「労働条件・労働環境の平準化」が進んでいますが、これらはやがて「雇用問題」にまで発展することを自覚しなければなりません。「エッセンシャル・ワーカー」として、それにふさわしい労働条件や労働環境はどうあるべきなのか。全ては「いのち」と「雇用」を守ることを最優先に議論を開始していきます。

職場活動を原点に 安全で誇りの持てる職場と 仕事を守り抜こう！

2月以降、現場長名で「過半数代表者の選出について」という掲示が張り出されました。

組合員が責任者である現場長に質問をしても、東京支社の勤務課に確認するなど、東京支社主導の労働者代表選挙であったことは明らかです。つまり、今回行われた「労働者代表選挙」は、会社の意向に基づいた「名ばかり労働者代表」をつくり出すことが目的だと断定できます。

36協定締結に向けた取り組みでは、職場のたたかいはよって、何とか締結に至る事ができました。あらためて感謝を申し上げます。しかし一方で、各労働者代表が求めた超勤縮減に向けた対策等の議論が成立せず、改めて事業場単位の締結を求める必要性が鮮明になりました。

東京地本は、東地申4号で、適正な労働者代表者の選出と36協定の事業場ごとの締結を求めて議論しましたが、労使間の認識に大きな乖離があり、対

立で終了しました。多くの有識者のアドバイスを受け、団体交渉を申し入れ、秋のたたかいで職場討議をおこない、労働者代表選挙と事業場単位の締結に向けた準備に入ることとします。

また「労使間の取扱いに関する協約」に基づいて、分会掲示板が設置されていますが、未だ設置に至らない分会があります。それは、人目につかない場所や防火扉の奥を現場長が指定し、理由も示さず「そこ以外は貸さない」と頑なに話し合いを拒んでいるからです。

組合掲示板は、組合員とその他の労働者に対する情報伝達活動の重要な手段です。人目につかない場所を指定するということは「許可しない」も同然で、労働組合活動を規制し妨害する不当労働行為です。

既に2ヶ月間も掲示板が使えず、組合員に情報・宣伝ができないという不利益を被っています。大会討議を受けて、直ちに団体交渉を申し入れ、社会と連帯しながら職場と共にたたかいかいをつくり出します。

日常活動の強化を通じて、 更なる組織強化・拡大をめざそう！

5月15日の協約・協定締結以降、50名を超える仲間が新たにJTSU-E東京地本に結集しました。職場で奮闘していただいた全ての仲間感謝申し上げます。

しかし、残念ながら加入に至る過程で未だに利益誘導による不当労働行為が繰り返されているとの報告が複数ありました。JTSU-Eに関心を示した組合員を管理者が呼びつけ「あなたの未来のために入らないほうがいい」と長時間にわたって恫喝したり、分会役員と話をしていただけで呼び出され「何を話していたのか」しつこく聞かれる事象が報告されています。

一方で、こうした利益誘導の不当労働行為がなぜ現在も続いているのかを考えていかなければなりません。不当労働行為を行う側の問題は勿論ですが、それを傍観している側の問題もあります。「傍観者効果」という心理学の用語があります。自分以外に傍観者がいると率先して行動を起こさないと心理で「傍観者が多いほどその効果は高い」というものです。つまり、多くの傍観者の存在によって不正を行いやすい職場環境が作り出されており、そうした傍観者に対して自らを迫る議論を行いながら、労働組合に属する必要性を訴えていきたいと思えます。

コロナ禍によって、人と人が分断される今だからこそ、人と人とのつながりを大切に、サークル活動等を通じながら、更なる加入に向けて取り組みを強化します。

人間らしく生き抜く社会の実現をめざし、 災害から「いのち」を守る鉄道と 職場をつくり出そう！

ここ数年「観測史上最大の」という言葉を繰り返す耳にしますが、その根本的な問題は地球温暖化による「気候危機」であります。

新型コロナウイルスも温暖化による生態系の変化が影響し、人間と野生動物の距離が近づいたことで、人間社会にウイルスが持ち込まれたと言われています。

昨年、鉄道施設も含めて国内に甚大な被害をもたらした大型台風など「気候危機」について問題意識を持ち、災害に対する備えを具体的なものにしていかなければなりません。

東日本大震災で津波被害にあった「大川小学校」の訴訟では「事前防災」の不備を認められた二審判決が最高裁で確定し、自治体や学校だけでなく鉄道会社にも「事前防災」が義務づけられました。来年は、東日本大震災から10年を迎えます。首都圏の鉄道輸送を担う東京地本として、首都直下地震発生時に備えて、組合員と乗客の命を守るための行動訓練を実施し、事前防災の備えを運動としてつくり出します。

また、河川の決壊等による浸水被害の備えとして、海抜ゼロメートル区域に住む組合員と家族の広域避難場所を事前に定め、訓練していくことも必要です。自治体が指定する避難場所では受け入れに限界があるので、組合員やOB友の会の自宅を一時的な避難先にすることを検討し、広域避難の希望者と受け入れ者の把握を早急に行います。

組合員とその家族の命を守るためには、組合員同士が協力し助け合うことが重要です。そのことがJTSUの役割であります。

今定期大会は、私たちJTSU-Eが時代の大転換期の中で、未来を切り拓くための歴史的なスタートとなります。組合員と家族の幸せの実現のために、あらゆる妨害に屈することなく、5年先、10年先を見据えながら全組合員で、明るく楽しい、そして真つ当な労働組合をつくりあげていきましょう！

ご報告

地本大会本会場において、
九州豪雨カンパを取り組みました

52,000円 集まりました

ご協力ありがとうございました
くま川鉄道へ
寄付させていただきます

12名の代議員から、 たたかいの実践が多く語られる！

職場活動を基礎に、JR東日本輸送サービ ス労働組合運動を推し進め、さらなる組織 強化・拡大を全組合員でかち取るたたかい

支部・分会結成と組織強化・拡大について

▼分会結成は、なぜ新しい労働組合が必要なのか、本来の労働組合の役割を議論することからスタートだった。職場集会や総対話行動を通じ、動揺や不安を取り除いた。そのような中、労働協約・協定が締結されこの先の雇用を考え、労働組合の必要性を感じ加入を決定してくれた仲間が多い。▼36協定締結に向けたたたかいは通じ、組合員はもとより非組合員が私たちの姿勢を見ている。残念ながら組合員に「加入したい」という仲間はほとんどいない。しかし、悩んでいる仲間に対して人間関係を作り、道筋をつけることが重要である。▼一人で加入することに抵抗感を示していたが、統一加入日を設定し対話を続けた結果、5名が加入した。対象者を明確にしてJTSU-Eへの結集を呼びかけていく。▼支部結成に向けて準備委員会を立ち上げ、毎週のミーティングでどのような大会を目指すか議論してきた。その中で「他労組の委員長は頼りない」「仕方ない」という仲間が多い。当り前の労働組合運動を進め、組織拡大につなげていく。▼新たに支部を立ち上げた。今後は、安全衛生委員会の開催と掲示板の設置を求め、明るく楽しい職場をつくり出していく。

労働協約・協定に基づく掲示板設置について

▼掲示板は希望箇所に設置することができた。職場の掲示板が組合員にとっては一番身近な情報発信の場であることを改めて感じた。▼先輩から「組合掲示板は、非組合員にも見てもう意味があるよな」という言葉をもらった。掲示板の希望箇所の設置に向けて、労働センターのアドバイスや支部・地本と連携しながらたたかいはつくり出す。▼希望した箇所の設置は実現できなかったが、緊急職場集会の開催や個別総対話で会社の狙いを見抜き、現場長への要請書に全組合員が取り組んだ。

新型コロナウイルスを教訓に、中長期的視点で企業価値を高めて「いのち」を最優先する職場環境・労働条件を実現させるたたかい

▼4月、営業職場では一部勤務が免除となり、自宅待機となったため不要不急の超勤・委員会がなくな

り突発休が0件だった。しかし、緊急事態宣言解除以降、委員会活動が活発になった。また、営業列車の消毒作業が社員から募って実施されている。▼職場版BCP(事業継続計画)が策定された。「新型コロナウイルス第2波に備えた新たな働き方の検討」とあるが、目指されているのは社員の業務運用と工場の回転効率である。職場では出勤率20%削減が目標とされているが、車両入出場の工程には変化がないため「新型コロナウイルスの名を借りた効率化」である。

権利意識を高め「鉄道安全」と「労働安全」の実現を通じて、鉄道の社会的使命に基づく輸送サービスを提供し、すべての仲間と利用者の「いのち」を守り抜いたたたかい

労働者代表者選挙勝利、36協定締結に向けたたたかについて

▼労働者代表者選挙に向け、全執行部で取り組んだ結果、勝利することができた。日頃の人間関係が大事だと感じた。▼事業場単位の締結を実現するために分会として申し入れを行った。最初の説明で出されたデータは超勤の平均値のみで、締結できる状態ではなかった。議論を繰り返して、納得できる内容であったため締結をした。今後は示されたデータをもとに検証行動につなげる。▼組合員数よりも多くの票を獲得することができた。▼若手からは「信頼しているから投票した」と言われた。日々の業務や関係づくりの結果であり、大きな成果である。▼説明会の中で会社に迫るため、労基署にアドバイスを受け自分自身も勉強した。会社の「細かいデータは示せない」「事業場ごとの締結ではなく支社長との締結となる」「議事録経過は掲示しない」という回答に対し迷いや力不足を感じたが、職場の仲間は「そのようなデータで何が分かるのか」「誠意が感じられない」などの意見が出された。今後の運動につなげていく。▼初めての選挙であったので具体的に何をしたいのか分からず、不安が大きかった。しかし、労働者代表の役割として社員の安全や健康を守ることは、会社側の候補者ではできないことを意思統一し選挙に臨んだ。結果として、組合員数の3倍の票を獲得できた。また、近隣の運車職場とも連帯したたたかいはつくり出すことができた。▼労働者代表に要請行動を2度行った。1度目は「特定の労働組合からの書面は受け取れない」と言われた。受け取らないということは、社員の意見を聞かないということであり、社員代表として間違っている。

たまま所定速度で走行した結果、運転士が異常動揺を認め緊急停止させた。当該運転士は「死ぬかと思った」と話している。分会は対話とアンケートに取り組んだ。特徴点として、高さ調整弁棒が折損した場合の取り扱いに関して「役割は分かるが構造まで分からない」「判断できない」など明確な取り扱いが存在しないことが判明した。組合員は、自分の仕事にプロ意識と誇りを持っている。JR東日本の安全は、現場の高い意識によって守られているといっても過言ではない。安全衛生委員会でも議論してもらったため社員代表に要請書を出したが「自区で留まる内容ではないため議論しない」と回答し、安全議論をせず現在も行われていない。

会社施策について

▼会社は「変革2027」を打ち出し技術革新を活用し、人による労働をシステムに置き換えようとしている。私たちの労働はどうあるべきなのかを考える必要がある。▼「コストダウンスタンプリ」の存在で、コストダウンが変質している。必要なコストダウンなら認めるが、乗務員の健康・安全や乗客の生命の軽視は認められない。組合員の生命・安全・労働条件の低下を許さないたたかいはつくり出す。▼会社施策は系統や職場によって、形を変え矢継ぎ早に行われている。本質は「社員化」であり、リネン・車内消毒・アルコール検査等、一つひとつの攻撃に抗するたたかいだけではなく、系統を越え連帯したたたかいは重要になってくる。

オリンピック・パラリンピックについて

▼JR東日本の駅構内のポスターなどはJR他社や私鉄に比べて「無秩序で見にくい」「分りにくい」と感じた。3月に羽田・成田空港現地踏査を行い、支部の垣根を越えて運動を広げてきた。オリンピック・パラリンピックが延期となり、会社のインバウンド対策がおざなりになっている。私たちが行ってきた検証運動や系統を越えた政策提言こそが「労働組合版イノベーション」といえる。

ジョブローテーションについて

▼乗務員基地再編成について、スケジュールを示すのみで具体的な説明がない。新しい運輸区に異動しても同じ駅内のため、ジョブローテーションの在籍年数は通算されてしまう。新幹線統括本部所属となれば地方へ異動の可能性もあり、ジョブローテーションとあわせて二重の不安が生まれる。組合員が不安にならないように、関係分会との議論を進めていく。▼異動について、時期や異動先、職種など具体的な話がされない。面談や自己申告書に無理矢理希望先を書かされている事象もある。これらを重視し

ないジョブローテーションは、強制転勤よりも悪質である。▼自己申告書や面談でも希望をしていないのに異動となった。10年を目途にという曖昧な基準で異動させるという施策であり「いつ声がかけるのか」「どこに異動させられるのか」という不安の中、日々業務にあたっている。

地球環境と共存した人間らしく生き抜ける社会の実現をめざし、地域社会との連帯で、災害から「いのちと職場を守る鉄道」を創造するたたかい

▼昨年の台風19号で、長野新幹線車両センターが水没したが、過日の大雨では、現地に宿泊していた運転士が、長野駅まで車両を避難させることができた。それは、私たちが災害時における人命確保、安全の確保を指摘した結果といえる。九州の豪雨災害を受け、広域避難の準備・議論をしなければならぬ。



大会を成功に導いた議長団(左から)

伊勢 和利
岡井 和利
伊酒 和利

発言者一覧(順不同・敬称略)		
松戸支部:	庄司 淳也	渡邊 正太
上野支部:	石森 友規	山崎 智一人
新宿支部:	與那覇 将義	泉 智秀
東京支部:	高橋 武史	中嶋 秀之
品川支部:	馬木 大樹	林 英司
東総七支部:	松崎 大樹	
支社支部:	高橋 哲也	

来賓あいさつ(要旨)

JTSU-E中央本部 事務長 串田 弘史

今、会社から施策が矢継ぎ早に打ち出され、私たちの生活・いのち・雇用が脅かされようとしています。このような状況だからこそ「全ての仲間のために」職場を第一に運動をつくりあげること、運動を社会に広め連帯を強めていくこと、何よりもJTSU-Eの必要性を多くの仲間が理解できる運動をつくり出していくことが重要です。

「コロナ禍により、かつて経験したことがない減収という状況に私たちは直面しています。結果として、夏季手当も大きく引き下げられてしまいました。JTSU-Eは「JR東日本グループで働くパートやアルバイトを含むすべての社員の雇用を守り抜く」ということを交渉で確認し、席上妥結の判断をしました。しかし、厳しい経営環境を私たちの犠牲によって乗り越えるということは許されるものではありません。会社が何を狙い、何をしようとしているのかを議論する必要があります。

5月15日に、労働協約を締結しました。これから協約に基づく労働協約をスタートさせます。九州の豪雨災害もありました。家族などに被災が無いかを確認していただきたいと思います。7月4日の本部第3回定期大会と同日、大宮地本と横浜地本が結成されました。これから、JTSU運動をさらに大きくしていきます。

